

# 都市浸水抑止に対する私有地内雨水浸透ますの 設置意思に関する実験的分析

秀島 栄三<sup>1</sup>・安田 健一郎<sup>2</sup>・福島 隼人<sup>3</sup>・伊藤 浩基<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 名古屋工業大学大学院工学研究科  
E-mail: [hideshow.eizo@nitech.ac.jp](mailto:hideshow.eizo@nitech.ac.jp)

<sup>2</sup> 名古屋市上下水道局

<sup>3</sup> 名古屋工業大学大学院

都市域では非透水性の土地利用が都市地表面を覆い尽くしておりこのために浸水被害が増大している。その対策として私有地内に雨水浸透ますを設置してもらうことが急がれる。その整備促進には住民や企業の理解が不可欠だが設置することの意義は必ずしも理解されていない。整備効果が設置者に帰着せず設置を受け入れられにくい場合もある。そこで一般市民による私有地内への雨水浸透ます整備に対する支払意思額をCVMを用いて推定した。結論として雨水浸透ますを認知している人ほど地域の問題として捉えずとも、また設置効果を示すコンピュータグラフィックスを見せずとも高い支払意思額を示す等の分析結果が得られた。

キーワード：雨水浸透，CVM，公共財供給，可視化技術